

普及項目	増殖
漁業種類等	採貝漁業
対象魚類	アサリ
対象海域	八代海

芦北町地先における被覆網によるアサリ資源管理

県南広域本部水産課・川崎 信司

【背景・目的・目標】

平成 23 年（2011 年）の豪雨災害以降、低迷していた八代海のアサリ資源は、令和元年（2019 年）頃までには被覆網による資源管理が行われ、再生の兆しが見え始めていた。しかし、令和 2 年（2020 年）7 月豪雨下での塩分低下により、アサリのへい死等大きな被害を受けた。県南水産課では、八代海全体におけるアサリの被害の状況等の調査を地元漁協・関係市町とともにを行い、被覆網によるアサリ資源管理に向けての普及指導を行った。その結果、地元漁協による取り組みの成果もあり、鏡地区、八代地区においては、令和 4 年春までに、ややまとまったアサリの漁獲が見込まれるに至った。

今年度は、これまでの成果を踏まえ、近年ほぼ漁獲の無かった芦北地区において、被覆網によるアサリの資源管理の取り組みを普及指導した。

【普及の内容・特徴】

令和 2 年（2020 年）7 月豪雨後に、成貝サイズのアサリは大きなダメージを受けたが、生残した被覆網下のアサリ稚貝は、翌年の 3 月には、殻長 30mm、拡幅 12 mmを超えるほど(漁獲サイズ)までに成長することが明らかになった。

このことから、芦北地先の春(3 月～6 月頃)生まれのアサリ稚貝について、7 月初旬に被覆網を設置して管理・育成し、翌年春(2 月頃)に漁獲するという、「アサリの被覆網による短期管理生産方法」を提案するとともに、その実証的な取り組みを行った。

調査場所：芦北町計石地区及び田浦地区の干潟漁場

調査期間：令和 4 年（2022 年）7 月～令和 5 年（2023 年）1 月

調査方法：7 月 1 日、各地先に 9mm 目合、4m×4m の被覆網を 15 枚設置し、アサリの生育状況（殻長ヒストグラム・生息密度等）の推移を確認した。

【成果・活用】

令和 4 年（2022 年）7 月に設置した被覆網下のアサリ稚貝は、順調に生育し、翌年の 1 月末には、漁獲サイズまでに成長した。

八代海北部干潟の八代市地先及び鏡町地先等のアサリ漁場においては、この方法により、1 年単位で効率的なアサリの生産が行われているが、今回の取り組みでさらに八代海南部の芦北地先の漁場においても、この手法によりアサリの生産が可能であることが実証された。

【達成度・自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図1 芦北町(田浦、計石)地先



図2 芦北町計石地先の被覆網設置状況(7月1日)

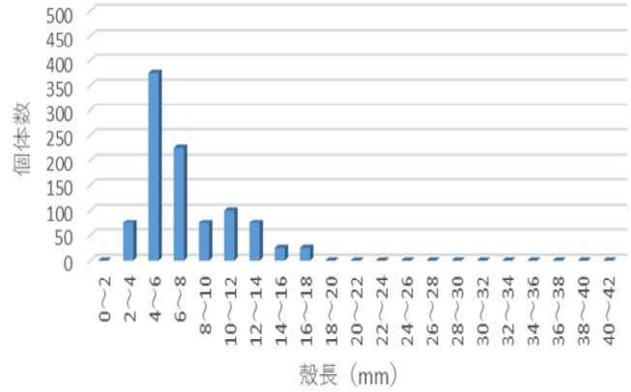
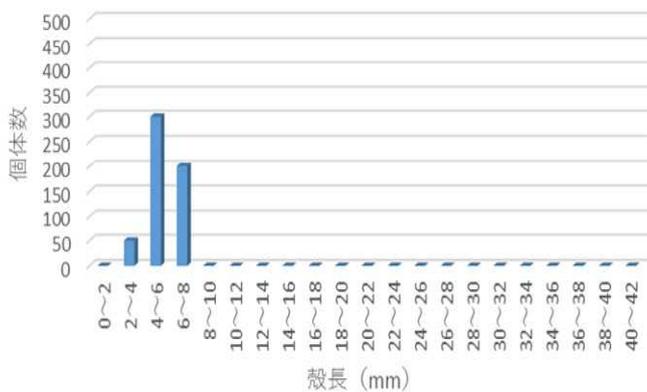


図3 網設置時(令和4年(2022年)7月1日)のアサリ殻長組成(左:田浦、右:計石)

田浦地区でサンプリングしたアサリは、主に殻長4~6mmの稚貝で、 m^2 当たりの個体数は525個であった。計石地区でサンプリングしたアサリは、殻長4~6mmの令和5年(2023年)春生まれと、殻長10~12mmの令和4年(2022年)の秋生まれと思われる2つの山があり、 m^2 当たりの個体数は975個であった。両漁場とも、被覆網による管理により、翌年春頃には適量のアサリの生産が見込めるものと想定された。

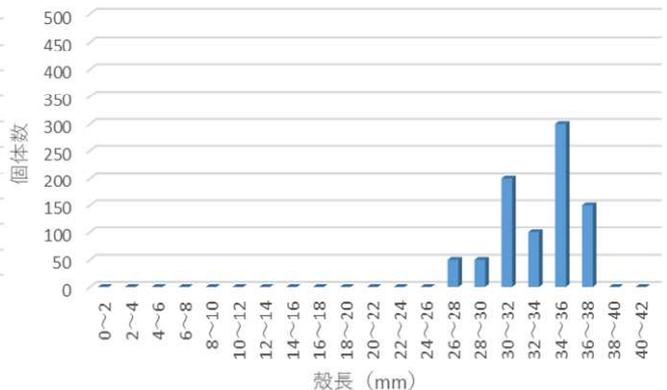
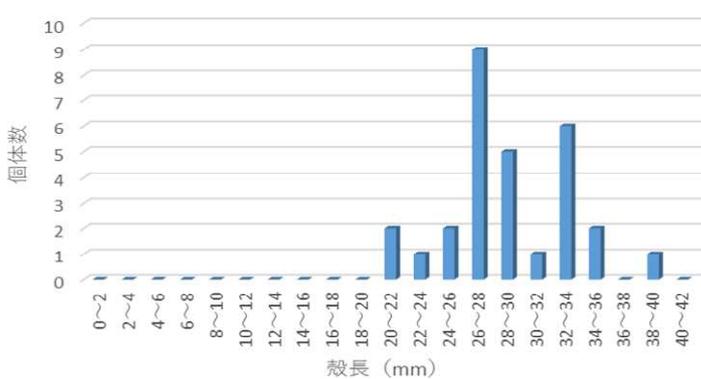


図4 被覆網管理後のアサリ殻長組成(左:田浦1月14日、右計石1月23日)

令和4年(2022年)7月に田浦地区で確認したアサリは、殻長32mm以上に成長した(殻長26mm程度のは、7月以降に着底したものと想定)。なお、令和5年(2023年)1月の調査時には、潮汐の関係から枠取りが出来ず、 m^2 当たりの個体数は未算出。計石地区も多くが殻長30mmを超え、漁獲サイズとなっており、 m^2 当たりの個体数は850個であった。両地区とも、令和5年(2023年)2月以降に漁獲が行われた。